平成28年9月
第9次宮城県生涯学習審議会

今後の宮城県の生涯学習推進について　～東日本大震災を乗り越えて～
（答申の概要）

○　平成23年3月に発生した東日本大震災の影響により，地域コミュニティの変容，人口減少の加速化，社会教育施設の機能停止など，人々の生活を取り巻く環境が大きく変化した。
○　一方，日頃から育まれてきた人と人のつながりや支え合いが，震災後の復興に大きな力を発揮し，地域コミュニティの重要性が再認識された。
○　第9次宮城県生涯学習審議会では，これまでの生涯学習の成果を活かした地域づくりや社会づくりに加え，震災から得た学びや気づきを活かした今後の宮城県の生涯学習のあり方について，検討を行った。

Ⅰ　宮城県の生涯学習を取り巻く状況

1　東日本大震災から学んだこと
(1) 日頃からの地域のつながりの大切さ
(2) 公民館等の役割と重要性の再認識
(3) 子どもの力
(4) 地域の行事や文化芸術・スポーツの持つ力

2　社会状況等の変化
(1) 社会環境の変化
(2) 学習環境の変化

3　宮城県における生涯学習の課題
(1) 社会環境に対応した学習機会の提供
(2) 地域コミュニティの構築
(3) 地域づくりへの子どもの参加・参画
(4) 学習成果の評価と活用
(5) 生涯学習を支える人材の育成

震災からの学び
・人と人のつながりの大切さ
・学校が地域に開かれていることの重要性
・地域コミュニティを支える公民館等社会教育施設の役割
・復興を支える子どもの力
・心の復興の一助となる文化芸術やスポーツの力

課題
・震災後，複雑化する地域課題への取組
・地域コミュニティの再生・活性化
・子どもが主体的に地域づくりに関わる環境の整備
・学びの成果を評価し活動につなぐ仕組
・学びと活動をコーディネートする人材の育成

Ⅱ　本答申における「学び」の捉え方　について

○　必要な知識・技能を身に付け，様々な体験・活動の中で実践する過程で，個人の意識や思考，行動などが変容すること
○　新たな「気づき」を得ること。他者との「学び合い」によって，さらなる「気づき」を得ること
○　自らの自己有用感を高めること
○　「学び」をさらに深め，新たな「学び」を喚起すること
○　「学ぶこと」は「生きること」そのもの

Ⅲ　これからの生涯学習推進について重点的に取り組むべき施策の方向性

1　学びを核として人と人がつながり地域を支えるみやぎ
(1) 世代を超えて人がつながる学び合いの促進
(2) 自分の住む地域を知り，地域活動への参加につなぐ取組
(3) 地域の学び・活動の拠点としての学校，公民館等社会教育施設のあり方

2　子どもと大人が学び合い育ち合うみやぎ
(1) 子どもの力を引き出し，地域参加を促進する取組の推進
(2) 家庭・学校・地域が連携・協働し子どもを支える取組

3　震災の教訓を次世代に確実に引き継ぎ，活かすみやぎ
(1) 災害に対応できる力の育成
(2) 震災の記憶の継承
(3) 震災を経験したみやぎの力

4　あらゆる人の学びを応援するみやぎ
(1) 誰もが求める学びを見つけ，学び続けるための支援の充実
(2) 多様な主体と連携した学びの提供
(3) 学びと実践の循環

Ⅳ　施策を実現するために必要なこと

1　学びの成果を適切に評価し地域で活かす環境の整備
2　地域の学び，地域づくりを支える人材の育成
3　生涯学習と学校教育の連携
4　生涯学習プラットフォームの構築

生涯学習プラットフォームとは
関係機関が情報共有や行動連携などゆるやかなネットワークを結び，地域の学びを支える基盤となるもの

Ⅴ　宮城県が目指す生涯学習の姿

住民相互の学び合いの成果を地域に還元し，活動や学びにつなげていくことが地域の活力となり，学びが深まる。
その学びと実践の循環の中で将来を担う子どもを育て，地域を担う人材を育てることを今後の地域活性化の原動力とし，震災により変容したコミュニティを学びを核として再生する「創造的な復興」を実現する。

住民の学びや活動の充実を通した地域コミュニティの再生と宮城の「創造的な復興」

誰もが生涯を通じて学び　自ら考え主体的に生きる力を身に付ける

学び合いの成果を社会に還元する「学びと実践の循環」をつくる